

第8回狛江市基本計画策定第二分科会会議録

- 1 日 時 令和元年11月6日(水)午後7時～9時25分
- 2 場 所 狛江市役所4階 特別会議室
- 3 出席者 委員長 杉浦 浩 副委員長 五十嵐 太一
副委員長 富永 和身 委 員 五十嵐 秀司
委 員 成井 篤 委 員 後藤 千尋
委 員 清水 満 委 員 橋本 研
委 員 平山 達郎
事務局 池田企画調整担当主任 西村企画調整担当主任
- 4 欠席者 副委員長 馬場 健司
- 5 議 題 1. 最終調整について
(3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち)
(7 自然を大切にし、快適に暮らせるまち)

2. その他

6 会議概要

議題1 最終調整について(活気にあふれ、にぎわいのあるまち)

～事務局より説明～

委員長 それでは、3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」について議論を開始する。

五十嵐秀委員 ①「魅力の創出・向上・発信」の指標「狛江市の認知度」について、これまでの議論や記載内容を踏まえると、「狛江市の魅力度」の方が内容に合致するように思う。

もう1点、第6回狛江市総合基本計画審議会の中で、他の分科会の現状について説明を受けたが、書きぶりや分量に分科会間で差があるように感じたが、内容を今後寄せていくような考えはあるのか。

事務局 確かに、分科会間で書きぶりや分量に多少の差はある。その理由としては、第二分科会は、特に7「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」でハードの部分を取り挙げているが、福祉や子育て、教育といった分野は、主にソフトの部分を取り挙げているためである。

また、あまり内容を1つの分科会に寄せすぎてしまうと、これまでの議論が無駄になってしまう可能性もあるため、現状では内容を寄せていくことは想定していない。

五十嵐秀委員 福祉といった分野の内容については、理念等が多く触れられていたので、確かに今から内容をそちらに寄せていくのは難しいのかもしれない。

事務局 その点については事務局でも議論はあったが、それぞれの分科会である程度の言い回しまで議論いただいているため、今から大きく変更や追記をしていくのは難しいだろうという結論になった。

委員長 ①「魅力の創出・向上・発信」の施策の方向性1「魅力の向上」で、弁財天池特別緑地保全地区と史跡が並列で書かれているが、一方は固有名詞で一方は総称であり、違和感を覚えるため、書き方をもう少し工夫していただきたい。

事務局 この部分については、表現を検討させていただく。

五十嵐秀委員 未来戦略会議全体報告書に記載されている内容について、どこかに記載は入れているのか。

事務局 例えば、7「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」の①「水と緑の快適空間づくり」の施策の方向性1「緑の保全・創出」に記載する等、部分的に入れている。

五十嵐秀委員 ④「都市農業の推進」の指標「狛江ブランド農産物生産農家数」はまだ伸びしろはあるのか。

富永委員 もう少しはあると思っている。

清水委員 「施策の現状と課題」と「施策の方向性」が対になるようにという話が以前あったが、「施策の方向性」については、1番重要なことが冒頭にくるようにし、そこからストーリーを考えて記載の順番を決定した方が、市民にとって分かりやすいのではないか。

事務局 重点項目については、庁内で決定させていただく予定としているが、確かに順番という視点も重要かと思う。

委員長 基本計画の場合、並列で書いて、書きぶりでどこが重要かをにおわす、あるいは基本計画を受けた実施計画で政策のプライオリティーをつけるといったやり方をすることが多い。

事務局 「施策の現状と課題」、それに対する「施策の方向性」が一致しているのかを、今一度確認させていただく

橋本委員 今回用語解説を入れてもらっているが、地域コミュニティやコミュニティ活動という言葉は、普段から使われるが、これらの言葉の定義は非常に広いので、ここで整理をしても良いのではないか。コミュニティという言葉は、どういうことなのかと考えはじめると非常に難しいが、私の中では、同じ地

域に住んでいる人のうち、同じ目的意識を持っている人の共同体というイメージである。

事務局 解説自体は可能だと思うが、余り明確にしすぎると、限定されてしまい、活用の幅が狭まってしまう可能性がある。

「町会・自治会をはじめとする地域コミュニティ」といったように、例示を挙げるのは可能だと思うが、明確にするのは非常に難しいと考えている。

後藤委員 1点確認なのだが、狛江市は間違いなくベッドタウンで、夜間人口と昼間人口に違いがあり、平日と休日でも市内に滞在する人口は大きく違うと思うのだが、3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」の施策をどこの時間帯にフォーカスを当ててるのかを決めた方が良いのではないか。

委員長 狛江市は確かにベッドタウンではあるが、現行の基本構想策定の際に、そこから一步進化しようという話になった。そこで、過去2回の基本構想で使っていた「住宅都市」という言葉は使わないこととし、これからは「複合都市」になっていこうという話になったと私は記憶している。そういった意味でも、「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」というのは365日を対象としているという整理で良いと考えている。

次に、7「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」に移る。事務局より説明をお願いします。

～事務局より説明～

委員長 それでは、7「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」について議論を開始する。

五十嵐秀委員 台風第19号があつて、水害に対する市民の関心は非常に高まっていると思うが、その点についてはどこの分野で触れるのか。

事務局 災害対策ということで、2「安心して暮らせる安全なまち」で記載することになる。なお、この度の台風では、下水の樋管の関係で内水氾濫が起きているため、その点については④「下水道機能の維持・向上」で触れることになると思うが、現時点では検証や評価が終わっていないため、踏み込んだ記載はできていない。

清水委員 ④「下水道機能の維持・向上」の目指す姿に、「いつ起きてもおかしくない災害」とあるが、「いつ起きてもおかしくない」は不要ではないか。

事務局 前回までは、「万が一」という言葉であったが、実際に、何十年に1回というレベルの災害が起きたため、危機意識を喚起するためにも、表現を改めた。

富永委員 特にここは下水道機能ということに焦点を絞っているため、「災害に備えて」くらいの書きぶりでも良いのではないか。

成井委員 逆に私は、そのところは強調していただきたいと思っている。自分は、台風第 19 号にかなりの恐怖を感じた。「いつ起きてもおかしくない」という言葉にこだわるわけではないが、何かしらの表現で、注意喚起をしていくべきだと思う。

事務局 例えば、「豪雨対策や地震対策」と書いているが、ここを「豪雨や地震といった災害への対策が十分に施され」とするのはいかがか。

委員長 その文章であれば、迫力を失わないように感じる。この表現については、事務局に一任するため、誤解を生まないように、また、迫力を失わないように表現をしていただきたい。

また、細かい指摘だが、⑥「道路・交通環境の充実」の目指す姿に、「水道道路をはじめとする都市計画道路～」と記載されているが、水道道路は呼称であるため、一番初めに水道道路について記載する際は、「調布都市計画道路 3・4・2 号線（水道道路）」と記載すべきだと思う。ただし、その後は水道道路でも良いとは思っている。

事務局 そのように修正する。

委員長 それからもう 1 点、⑥「道路・交通環境の充実」の施策の方向性 1「都市計画道路等の計画的な整備」に記載の無電柱化の表現について、内容は問題ないと思うのだが、無電柱化による整備を進めることが目標ではなく、無電柱化はあくまで方法の話で、目標は、それによる沿道空間の向上だと思うため、そのように表現を改めていただきたい。

事務局 御指摘のとおりであるため、担当課と調整して、文言を修正させていただく。

五十嵐秀委員 とあるシンポジウムで、災害時に、電気が使えなくなると水道等も使えなくなるため、電気の確保が非常に重要であるという話があった。現在、国でも分散型エネルギーというものを推奨しており、当然簡単に進むような話ではないとは思っているが、エネルギーの分散化や自給自足により、スマートシティを目指すというのも、必要な視点ではないかと思う。

委員長 今の話だと、防災対策が主眼になると思う。

事務局 先日、2「安心して暮らせる安全なまち」を所管する第一分科会の最終の会議が終了したため、第二分科会の意見をそこに反映するのは難しいと考える。

なお、2「安心して暮らせる安全なまち」の施策の方向性で、「災害時の被害を最小限にとどめるとともに、早期の復旧ができるよう災害に強い防災

都市づくりを推進していきます。」という記載があるため、もし今後推進していくことになっても、この部分で読むことはできるのではないかと思う。

後藤委員 多摩川の土手の天端の整備について、現時点でもまだ整備がされていないため、整備についての記載を入れていただきたい。例えば「サイクリングロードの整備」といった表現を入れて、今後の方向性を示すというのはいかがか。

五十嵐秀委員 舗装した方が土手も丈夫になり、洪水の際に決壊の可能性が減るのではないか。

事務局 サイクリングロードとしての整備という話は現状ではないため、基本計画にその記載を入れるのは難しい。土手の天端の整備については、現状を確認する。

富永委員 自転車利用の発展や環境の整備といった文言にしてはどうか。具体的な「多摩川」や「サイクリングロード」という言葉は入れずに。

事務局 その程度であれば、記載は可能である。

委員長 自転車利用の快適空間の創出といったような表現ではいかがか。

清水委員 サイクリングロード以前の問題で、土手の天端は、雨の次の日はウォーキングすらままならない、劣悪な環境である。

委員長 多摩川のサイクリングロードについて様々な提案があったため、何かしらの文言は入れたい。

成井委員 今後も見据え、直接的な表現ではなくとも、何かしらの布石を打っておいた方が良いと思う。

事務局 ここについては、一旦持ち帰らせていただき、土手の天端の舗装についての最新の情報も確認しつつ、事務局で書きぶりを改めて整理させていただきたい。

平山委員 中身の話ではないが、「施策の現状と課題」や「施策の方向性」で、文章が「狛江市は」で始まるものがいくつかあるが、狛江市が主語であるのは当然であり、原則主語の「狛江市は」はいらないと思うため、整理をお願いする。

事務局 他の分科会でも同様の指摘があったため、不要な部分は削除させていただく。

五十嵐秀委員 こまバスについて、「施策の現状と課題」には記載があるものの、「施策の方向性」には記載がない。何かしらの記載がなくても良いのか。例えば、こまバスにオンデマンドモビリティサービスを付ける等、付加価値をつける必要があると考える。

現時点でも、こまバスの運営はマイナス収支なのか。

委員 長 マイナス収支ではあるが、行政が運営しているコミュニティバスはどこも持ち出しがあるもので、それを覚悟の上ではじまったのがこまバスであり、私も設立に携わった。

こまバスの現状について、通勤時間帯は満杯になることもある。特に、交通不便地域にお住まいの方々が、通勤等に使用していると伺っている。

私も数年来、台数を増やして運行パターンを多様化した方が良いのではないかという話をしているのだが、財政上の問題で厳しいという回答を市からいただいている。

五十嵐太委員 こまバスは、元々が福祉バスだったこともあり、通勤に適したものではなく、市の公共施設や福祉施設を網羅できるようなルートになっている。

事務局 交通施策の代表例として、「施策の現状と課題」には記載をしなければならぬと考えた一方、今以上に利便性を高めるためには、多額の予算をかける必要があり、現状として抜本的な取組は難しいと考えている。

委員 長 南回り1台、北回り1台、予備が1台の計3台保有しており、1台当たり数千万円という予算がかかると聞いている。例えば、デマンド型にするとした場合、追加で何台か必要になってくるという問題がある。

橋本委員 1点確認なのだが、3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」の①「魅力の創出・向上・発信」の施策の方向性2「魅力の向上」に、「えきまえ広場等をこれまで以上に活用することで～」という記載があるが、ここを、「えきまえ広場、公共空間をこれまで以上に活用することで～」にできないか。

委員 長 具体的にどこかイメージがあるのか。

橋本委員 公園等、市が保有している公共施設等を今まで以上に活用して、魅力を向上していくという意味を込めたいと考えている。

事務局 この追記は、問題ないとする。えきまえ広場も公共空間の1つであるため、例えば、「えきまえ広場をはじめとする公共空間を活用することで～」という表現でいかがか。

委員 長 それでは、そのような形で修正をお願いします。

本日の議論はこれにて終了とするが、もし追加で意見等ある場合、明日までに事務局に連絡をお願いします。以降の修正については、私と事務局に一任していただくということでよろしいか。

～了承～

議題2 その他

委員長 その他特に意見等なければ、第5回狛江市基本計画策定第二分科会を終了する。